



閉会式終了後、大会に参加した子供たちと交流できれば、と会場に残った高鍋進選手と正代賢司選手。南気仙沼少年剣道会の選手と固い握手を結ぶ

第20回NTTデータグループジュニア剣道大会

あの日から一年。
3・11、高鍋進選手、正代賢司選手が
南気仙沼少年剣道会(宮城)の少年剣士たちと交流

子供たちに 笑顔

江東区立深川第五中学校
主催「NTTデータ剣道部」
撮影 窪田正仁

東日本大震災から一年が経った今年の3月11日(日)、東京江東区・深川第五中学校体育館においてNTTデータグループが主催する少年大会が開催された。毎年恒例行事であるこの大会だが、今年には宮城・南気仙沼少年剣道会の少年剣士を招待。さらに第20回大会の記念行事として、全日本選手権優勝にして世界大会日本代表メンバーでもある高鍋進選手、正代賢司選手の2人を特別ゲストに迎え、指導稽古、立台披露を実施。剣道界の未来を担う子供たちは、間近に接したスター選手にとびきりの笑顔を見せた。

「黙祷！」

3月11日、午後2時46分。少年大会ならではの騒々しいともいえる賑やかさにあふれていた体育館の空気が、司会者からのそのひと一言で静寂へと変わった。NTTデータグループジュニア剣道大会の大会関係者、参加者たちは、それぞれ一年前のあの時間に思いを巡らせ、すっと眼を閉じる。今回招待を受けて参加した被災地・南気仙沼少年剣道会の人々もまた、人生を大きく変えたあの瞬間を再びその脳裏に呼び起こしたことだろう。先ほどまではワイワイとおしゃべりに興じていたまだ小さな子供たちにも雰囲気だけは伝わるのか、ギョッと目をつむり、思いの1分間の黙祷を終えた――。

剣道部の精力的な活動、大会で収める好成绩などから、実業団剣道界を代表するチームのひとつに挙げられるNTTデータ剣道部。そのグループのひとつNTTデータ剣道部が主催する少年剣道大会は今回で第20回の節目を迎えた。大会は「小学生1、2年生の部」「小学生3、4年生の部」「小学生5、6年生の部」「中学生男子の部」「中学生女子の部」の5部門の個人戦が行なわれる。

NTTデータ剣道部部長であり、今大会の大会委員長を務める忽那太郎さんに大会発足の経緯と、今大会での試みの意図を聞いた。ちなみに忽那さん自身には剣道の経験はないそうだが、剣道部部長と大会委員長は日々同社購買部長が担う